

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会/陽光保育園/板橋第十小学校学童クラブ 発行日 2009年1月30日
編集 「明日にむかって」編集委員会 住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

57号

1月12・13・14日の3日間、全国民間保育園経営懇話会主催の第29回民間保育園経営研究セミナーが開催されました。参加者は35都道府県から342名。保育を守り拡充する方向性が明確に示された研修でした。最終日に行われた、外務省出身の浅井基文さん(現広島市立大学広島平和研究所所長)の記念講演が強く印象に残りました。「21世紀こそ人間の尊厳・人間観の平等を普遍的に実現する時代、そして「力による」平和観の支配を「力によらない」平和観によって置き換える時代です。まさに日本国憲法25条の生存権と9条の平和の道が21世紀の方向性なのです。その方向性に沿っての舵取りをしていく時なのです」。今こそ、混迷する世界の中で日本の持つべき立場を一人ひとりが自覚して、本来あるべき国の姿に方向性を直し、人間性を回復する時なのです。(T・R)

保育制度 最大の危機!!

国と自治体は福祉を放棄! 保育は利用者の「自己責任」?!



「子どもに必要な保育は、国と自治体の責任のもとに実施する」という公的保育制度は、日本の保育を守ってきた大切な制度です。その制度が今、国の施策によって壊されようとしています。

この数年、厚生労働省・社会保障審議会少子化対策特別部会のなかで、次世代育成支援のためとして新たな制度設計が検討され、昨年末、「今後の保育制度の姿(案)」が発表されました。そのなかの「新たな保育の仕組み」案は、これまで保育の実施に責任を負っていた市区町村の役割を大きく後退させるもので、保育関係者に強い衝撃を与えています。「新たな保育の仕組み」案の最も大きな問題点は以下のようになります。

1 保護者は保育所と「直接契約」に!?

新制度案

この「新制度案」では、保護者が直接保育所に入所の申し込みをし、保育料も保護者が直接保育所に納入することになります。保育所入所は保護者の「自己責任」となり、入所できるところを自分で探さなければなりません。

現行

厚生労働省は入所しやすくするためといいますが、現在待機児童の多いことを考えても、保育所を増やさないと、直接契約で自由を選べることはなりません。また、障害児など保育の必要な子が入所を断られたり、保育料も所得に応じた「応能負担」ではなく、サービスに応じた「応益負担」になることが考えられるため、保育料が高くて入所できなくなる心配もあります。

2 自治体は責任を負わなくなる!?

新制度案

保育所と利用者が直接契約を結ぶことにより、保育に関する責任が市区町村の手を離れ、個々の保育所と保護者に押しつけられることとなります。

現行

保育に関する諸問題(保育所の施設整備、職員の配置、保育料の設定など)は市区町村が実施主体として最終的な責任を負っており、これが保護者と保育所の安心につながっています。

3 私立保育園の運営費としての補助金がなくなる!?

新制度案

民間(私立)保育園への市区町村からの運営費支給がなくなる可能性があります。補助金は保護者への直接補助となり、保育所が代理受領する内容なので、お金の性格が違ってきます。各保育所が独自に運営することになり、園によって格差が生じやすくなります。厚生労働省がモデルとする介護保険制度や障害者自立支援制度のもとで各施設が困難をかかえているように、保育所の運営も困難をさかえることが予想されます。

現行

現行保育制度の補助金は、定員や施設規模に応じて各保育所に支給されているため、十分とはいえないまでも、最低基準が守られ、地域ごとの格差も少なく、安定した運営を継続できます。

直接契約になったら 保護者の巻

A 保育所へ入所したいけれど、保育料が高くて入所できません。

B 保育所へ入所したいけれど、保育料が高くて入所できません。

C 保育所へ入所したいけれど、保育料が高くて入所できません。

D 保育所へ入所したいけれど、保育料が高くて入所できません。

契約とれるまで園まわり...

陽光保育園 の生活 秋～冬



●どんぐり組(0歳児)
葉っぱのおふろに入っている気持ち! 11月、東板橋公園で



●めだか組(1歳児)
たくさんの落葉の中を元気いっぱい駆けまわり、葉っぱまきながら、口々に「おめでとう!」まるで葉っぱのシャワーのよう



●とんぼ組(3歳児)
11月13日、西山高取へ登山遠足。木の実を探したり、野イチゴを摘んだりしながら、秋の自然たっぷりの登山を楽しみました

●あひる組(2歳児)
11月26日、茂呂山公園に遠足。落葉のじゅうたんを踏みしめながら歩きました



●うさぎ組(4歳児)
11月18日、金勝山へ遠足で行ってきました。大きなイチヨウの木の下にはイチヨウの葉がいっぱいで、とっても気持ちよかったです!



●かもしか組(5歳児)
10月29日、芋掘り遠足で収穫したお芋で焼き芋パーティー。小さい子の分までつくると大はりきり。2m以上もある木を自分たちで切り、たき木にしました

おかげさまで 陽光保育園は今年8月、創立60周年を迎えます。

1948(昭和23)年8月、大谷口の水道タンクそばの銀杏並木で、陽光保育園初代園長(社会福祉法人陽光会初代理事長)の平沢静子さんと近所のお母さんたちが、子どもたちのために「緑陰子ども会」を開きました。戦争が終わってまだ間もない時代、いわゆる「青空保育」です。「屋根のある保育園にしたい」というお母さんたちの強い思いから、みんなの知恵を集め、青空から借家へ、借家から借地へと移り、1949年夏、住宅金融公庫からの借入金で現在地に18坪の木造の園舎が建築されました。これが陽光保育園のはじまりです。当然、入園希望が相次ぎ、18坪の園舎ではたちまち手狭となり、3坪、6坪と増築を重ねるうちに園舎は老朽化、1968(昭和43)年の改築では、保護者による改築後援会が発足し、補助金と借入金で園舎53坪、定員92名の新園舎ができました。この間、1950(昭和25)年には認可園になり、1967(昭和42)年には社会福祉法人陽光会も設立しました。その後0歳児保育、産休明け保育をやりたい」という職員の要望が強まり、1979(昭和54)年に再び増改築。定員を79名に改定し、産休明けから就学時までの保育ができる保育園になりました。1997(平成9)年にはそれまで借地だった土地も借入金によって購入しましたが、阪神大震災など大規模な地震が起きるなかで園舎の耐震性の問題が浮上。同時に老朽化の問題も生じ、2006(平成18)年には全面改築。定員を85名に増員し、乳児定員増、一時保育開始、延長2時間(夜8時まで)の保育も始めました。創立から60年、三度の増改築や敷地の購入をはじめ、保育園の運営や保育の発展も、在園・卒園父母のみならず、地域のみならず、保育に携わってきた職員のみならず、気持ちをよせ、力をよせ、築いてきたからこそ実現できたことです。激変する社会情勢のなか、保育園は厳しい局面に立たされていますが、これまでと同様、保育園に関わるみんなで60周年を考え、祝うことができれば何よりだと思っています。(陽光保育園事務主任 細川律子)

おやこであそぼう！

ふれあい、じゃれっこ、くすぐり、からだあそびを楽しもう

多田純也



私たちが子どものころ、おとなのまねをして肩をもまると、くすぐったがったものですが、今の子どもたちは肩をもんでやると、「きもちいい〜」といます。おどろきました、肩がこっているんですね。多分ストレスもあるかと思いますが、ひとつにはTVがあるかと思っています。からだは不思議なもので、どこかの筋肉が緊張して固まると、全身の他の筋も固まります。TV画面の前やゲーム機の前でじっと画面を見つめる子どもの目の筋肉は固定されて、からだも動かない。今はやりのからだをつかうTVゲームだっただけで、目の焦点の筋肉は固定されていますね。

こんな時間を一日何時間も過ごした子どものからだはカチカチです。また、子どもはいつもからだを動かして遊んでいます。じつとしていられないのは未発達な心臓の役割を他の筋肉でフォローしているからともいわれます。動くことで全身に血液を循環させてい

るんですね。つまり、目も含め、どんなからだを動かすことが大切だと思われま



るといっても、今のスポーツクラブなどはおとなの指導する習い事、塾のようになっているため、あまりおすすめできません。子ども自身が自由な発想や関係のなかでのびのびとからだを動かすことができる「あそび」こそ、子どものからだの発達にとつとて大切なことではないでしょうか。



手あそび、指あそびにも手の動きをうながしたり、親子で触れ合えるものがたくさんあります。おもちゃがなくても手は最高のグッドトイといえます。

先日、くすぐりでも笑わない2歳児がいて驚いたのですが、このごろ顔の表情が乏しい子どもも気になります。当たり前のようですが、顔も筋肉でできています。歩かないと歩けなくなるように、顔の筋肉もつかわないと表情のない顔になってしまう

さあ、今日からほんの10分、ちよつとTVやゲーム機、パソコンを切って、親子でじゃれつきあそびで遊ばせよう。きつと親もイキした顔で、からだも心もすっきり気分ですよ。

（芸術教育研究所客員 研究者・表現あそびの 風光舎主筆）

ごあんない
◆陽光保育園父母の会学習会
食と歯のいのち
講師 わつ菌は劇場
和田美登里さん（歯科衛生士）
とき 3月8日（日）午前10時
場所 陽光保育園ホール
* お子さま連れどうぞ
◆陽光保育園園式
とき 3月20日（祝）午前10時
場所 陽光保育園ホール

おしらせ（社会福祉法人陽光会）
●練馬区立北町保育園の運営業務を
受託しました
公立保育園の民間委託が推し進められて
いる今日、「社会の共有財産を守るのは
社会福祉法人」「陽光の保育実践を広げて
いく役割がある」という理念のもと、練馬
区立北町保育園の運営業務を2010年4
月から受託することになりました。現職員
5名が異動し、新たに保育士・看護師・調
理員・栄養士・事務員を雇用していきます。
●保育所の一部として、
新たに不動産を購入しました
新園舎になって定員が増え、一時保育事
業も始めたため、それまでは収まっていた
大型の荷物等が入りきらなくなり、近隣の
民家を倉庫として借りました。そんな折、
近隣の民家が売りに出され、昨年5月、医
療機構から借入れをして購入しました。倉
庫だけでなく、これまで手狭だった休憩室
として、また会議室などとして使用してい
きます。

お父さんの出番です!!

11月のある休日
11月の休日に娘と高尾山に出かけてきました。身重のママは家で留守番のため、娘にとっては多少の不足りなさはあったようですが、八王子在住の私の姉夫婦と4人で山頂まで登りきり、下りも足が棒のようになりながらも無事戻ってくることができました。私は正反對に力強く前へ進む娘の姿をはるか後方から眺め、あらためて娘の肉体的な成長を実感しました。紅葉が見ごろのシーズンということもあり、山は人で溢れていましたが、お天気にも恵ま

帰りの道、電車を途中下車して、八王子の町を散策することができました。今回の目的の一つはもちろん娘との山登りであり、彼女自身もたいへん楽しみにしていたイベントではありましたが、私にとってはこの途中下車こそが何よりも楽しみにしていたプランだったのです。私たち夫婦にとって八王子は5年前までの8年間を暮らした娘も1歳半まで過ごした思い出の町であります。8年間ではありましたが、たくさんの方々に親切にいただいた、私にとっては楽しい思い出詰まった第二の故郷なのです。町を歩き、昔と変わらない風景を眺めると、八王子での暮らしが蘇り、懐かしさで胸がいっぱいになりました（ちなみに娘はまったく記憶にはないようでした。私にとって楽しい思い出というのは、「結婚後しばらく子供がでなかった期間の大半を過ごした町で、今では考えられないような自由気ままな生活をしてきた」という意味です。休日の時間をコントロールできない現在の生活とは正反對の生活がこの町にはありました。「休日には起きたいときに起き、食べたいときに食べたいものを食べ、出かけたときに出かけたいところへ出かけたい」とも自分たちを中心に時間が動いていたのです。

突然の訪問にもかかわらず当時お世話になった方々の家でご馳走になり、二人で帰途につきました。帰りの電車の中、私の横には疲れてすでに眠り込んでいた娘がいました。その寝顔を見ながら楽しかったその日のこと振り返って見ました。この子が今日パパと付き合ってくれたらよかったらこんな日に楽しみたい1日を過ごしたのだろうか。間違いない答えはノーでしょう。コントロールできない休日の時間のかわりに、かけがえのない休日の時間を提供してくれている娘にあらためて感謝した11月の休日でした。

（5歳児クラス・琴美の父 矢野功司）

（板橋区在住 板橋生活と健康を守る会事務局次長）

ようこうはいくえんの 一時保育

◆こんなときご利用ください
・保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。また保護者の傷病・災害・事故・出産・冠婚葬祭など緊急時
・保護者の生涯学習・子育て不安・リフレッシュなど
・育児相談、健康診断等でお子さんが保育園での保育が必要と認められたとき

◆利用日・利用時間など
・月曜日～金曜日の9時～17時（土・日・祝日・年末年始休）
・1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」利用の方は生後10か月から。一日1時間～8時間。ご希望の時間帯で利用できます。

◆お申し込み・お問合せ
直接陽光保育園へ。
（受付時間10時～17時）
緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます（親子でおいでください）。
・利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問合せください。

◎寄付のご協力ありがとうございます（2008年7月1日～12月31日）
山下澄子、高久マサミ、石塚加代子、早坂隆満・ハルコ、磯貝正・照子、山田洋子、宮澤章子、成富千尋、川上敏子、「民俗 森越」土屋栄一、匿名希望1名、陽光会財政部財政活動（父母の会、職員、後援会、理事会）
* 陽光会：チャリティコンサート「馬頭琴の夕べ」の収益
陽光保育園後援会：「大城松健チャリティギターコンサート」の収益
職員：「リズム講習」講師派遣、「平和盆踊り」への出店収益
父母の会、職員：Tシャツ販売、食品販売

◎社会福祉法人陽光会・建設財政連絡会より
2008年7月1日～12月31日の財政活動収益（物品販売他）と寄付金の合計は118万円になりました。みなさまのご協力で心から感謝いたします。今後とも、ご支援のほど、よろしく願いいたします。

◎寄付のお願い（1口5000円/何口でもけっこうです）
下記口座に振り込みお願いいたします。
郵便振替口座番号 00140-0-260468 口座名義 陽光保育園建設委員会
* 寄付金控除の対象になります。領収書が必要な方はお書き添えください。

子ども時代は戦争のまっただなか

田辺弘子

1937（昭和12）年7月7日、日中戦争の発端となった瀟湘橋事件が起こり、直後、父は出征し、その留守中の9月17日、私は淀橋区柏木（現新宿区西新宿）で生まれました。母の実家は市ヶ谷にあった炭屋で、父が養子に入り、私は7人兄妹の4番目（次女）でした。1943年、小学校に入学しましたが、勉強より何より、空襲警報が鳴ると、パンをひとつもらって防災頭巾をかぶり、急いで家に逃げ帰ることのほうが多かったように思います。

空襲が激しくなると、姉は集団疎開で草津へ、私は縁故疎開で高崎の親戚に預けられました。小学2年生の5月には、私は姉と祖母とともに神奈川県座間市に疎開しました。今の米軍基地があるところで。座間の小学校は軍隊が半分使用し、校庭は訓練場として使われていたため、教室の窓から兵隊さんの訓練をながめる毎日でした。

新宿に大空襲のあった1945年5月25日は、東京方面の空が真っ赤に染まっているのが座間からも見え、「家は大丈夫か、両親は無事だろうか」と、祈るような気持ちでした。私の家族は、家は焼けたものの、母は幼い妹を背負い、父と兄は布団をかぶり、大久保方面に逃げて命からがら助かりました。私は、座間で終戦を迎えました。

しばらくして、私たちは新宿に戻りました。あたり一面焼け野原、青梅街道から新宿、大久保、新大久保あたりまで見渡せる、その光景に驚きました。私たちは家族で暮らせるようになりましたが、家といっても、焼けこげた材木とトタン板を組み合わせただけのもので、雨漏りはひどく、家の中から月や星が見えました。家のまわりに芋や野菜を植え、自給自足の生活でした。学校は全焼し、小学生は近くのお寺の境内で授業を受けていましたが、雨が降れば休校でした。

中学時代は、父が結核にかかり、私は生活のために母の内職を手伝いました。姉は昼間働いて、高校は夜学に通いましたが、私は全日制の高校に行かせてもらいました。駒場高校の校舎は兵舎を改造というよりそのまま、運動場は馬の訓練場だった谷間にありました。3年生になって就職クラスに入り、激戦の中を生命保険会社に入社。42年間平社員として男女格差と闘い、定年で退職しました。

現在、「生活と健康を守る会」で弱い立場の方たちのために運動や相談活動をしているのも、戦中・戦後の貧しく、苦しい生活があったからだと思っています。戦争は絶対に反対です。

（板橋区在住 板橋生活と健康を守る会事務局次長）

（5歳児クラス・琴美の父 矢野功司）